

資料1



このワークシートは、『図説 日本史通覧』の「特集 資料別読み解き演習① 図像資料」p.339 1 に対応しています。同ページを参照しながら、次の問いかけに答えてみましょう。

Q1 資料1 (左図)の倭国使と百済使について、身なりのようすに注目して、表の空欄①～④を埋めてみよう。

	倭国使	百済使
頭にかぶっているもの	頭に布を巻いている	頭には ① 冠 をかぶっている
身につけているもの	② 布 を身にまとっている	中国風の ③ 礼服 を身につけている
足もとのようす	靴をはいておらず、はだしである	④ 靴 をはいている

Q2 資料1 の倭国使の姿は百済使に比べてどのような印象を与えるか、文化的に進んでいるように見えるかという点から簡単にまとめてみよう。

(例) 百済使が文化的に進んでいる印象を与えるのに対して、倭国使は文化的に遅れている印象を与える

Q3 資料1 に描かれた倭国使と百済使の様子は、実際にその姿を見て描かれたものか、次の(1)～(3)の手順で検討してみよう。

(1) 資料2 で百済と倭の中国の王朝への朝貢を調べて次の空欄を埋め、選択肢には○を囲んでみよう。

朝貢した年や頻度		
百済の朝貢	梁以前の朝貢	・百済は ⑤ 372 年に初めて中国に朝貢 (以後、定期的に朝貢)
	梁への朝貢	・ ⑥ 512 年に初めて梁に朝貢 → 549年までに ⑦ 5 回の朝貢を行っている
倭の朝貢	梁以前の朝貢	・ 倭王の武が ⑧ 478 年に南朝の宋に朝貢
	梁への朝貢	・ 倭が梁に朝貢したかどうかは (確認できる・確認できない) → 『梁職貢図』が描かれたころには、倭は ⑨ 60 年以上にわたって朝貢していない可能性が高い



事実から推測できること	
百済について	・百済は定期的に梁に朝貢しているため、『梁職貢図』の作者は、百済使の姿を直接 目にしたことが (ある・ない) と考えられる
	・倭の朝貢は確認できないため、『梁職貢図』の作者は倭国使には (会ったことがある・会ったことがない) 可能性が高いと考えられる

(2) 資料3 「魏志」倭人伝に描かれた、邪馬台国の時代の倭の人々のようすと 資料1 の倭国使をくらべ、右の表の項目について、「魏志」倭人伝の記述と合う場合は○、異なる場合は×を入れよう。

頭のようす	身につけているもの	足もとのようす
○	○	○

(3) (1)(2)の検討結果から、『梁職貢図』の倭国使の絵は、どのような方法で描かれた可能性があるといえるだろうか。右に簡略にまとめてみよう。

(「魏志」倭人伝のような古い記録をもとに想像で描かれた可能性がある)

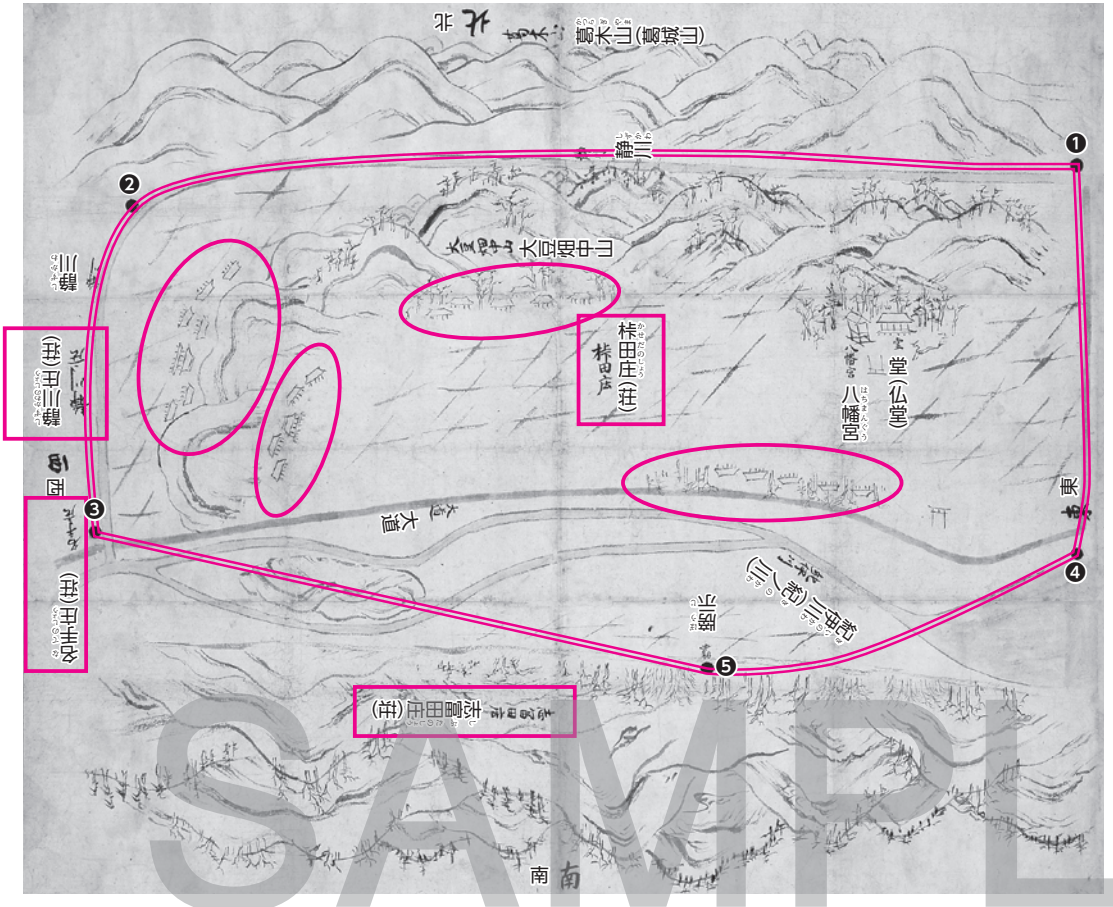
このワークシートは、『図説 日本史通覧』の「特集 資料別読み解き演習① 図像資料」p.340 2 に対応しています。
同ページを参照しながら、次の問いかけに答えてみましょう。

資料1

① 紀伊国栲田荘絵図

資料2

② 栲田荘の歴史



- 1147 栲田荘が史料に初めて登場する(崇徳上皇領)
- 1156 保元の乱で崇徳上皇が敗北→のち栲田荘は後白河法皇へ
- 1164 紀ノ川の氾濫で川の流路が変わる
→のち、栲田荘と志富田荘との間で境界争いが起こる
- 1183 後白河法皇が栲田荘を神護寺に寄進する
- 1184 栲田荘を神護寺領と認める手続きが取られる
- 1223 栲田荘と静川荘との間で境界をめぐる争いが起こる

Q1 資料1 の絵図には、4つの荘園の名前が記されている。絵図から選んで、それぞれの荘園の名前を□で囲んでみよう。

Q2 資料1 の荘園の様子を読み解いてみよう。空欄()には該当する語句を記入しよう。

全体のようす	(1) Q1 の荘園名のうち、絵図の中央の部分に記されているのは(① 栲田荘(荘))である。 (2) ①の荘園名の南側には(② 大道)と記された道が東西に走っている。 (3) ②の道の南側には、大河の(③ 紀伊川(紀ノ川))が東西に流れ、その支流の(④ 静川)が(⑤ 名手庄(荘))の荘園の東側で③の川に合流している。
荘園の様子	(4) ①の荘園名が記された周囲には、(⑥ 田畑)とみられる格子状の記号が描かれている。 (5) その周囲には、家屋がまとまった集落が4か所みえる。集落をすべて○で囲んでみよう。また、それぞれ何軒の家屋が見えるか、西側から順に数えよう。→(⑦ 7)軒・(⑧ 5)軒・(⑨ 6)軒・(⑩ 5)軒 (6) 荘園の境界を示す榜示が、①～⑤の5か所に示されている。榜示を=の二重線で結んでみよう。 (7) (6)で示した=線の内側は、何の範囲を示しているだろうか。→(⑪ 栲田荘の荘園の範囲)
	(8) その他、気づいたことを指摘してみよう。 ・栲田荘の荘園名の東側には、仏をまつる堂(仏堂)と八幡神をまつる八幡堂が描かれている。 ・栲田荘の荘園名の北には、「大豆田中山」の地名が記されている。など

Q3 この絵図には、荘園と荘園との境界争いの際に作成されたとする解釈もある。この説の立場から、絵図が境界争いのなかで作成されたと主張する場合、絵図中のどのような点が根拠になるだろうか。資料2 やQ2 (6)の作業結果、本体 p.340 の「境界争いと荘園」を参考にして、根拠になりうることをあげてみよう。

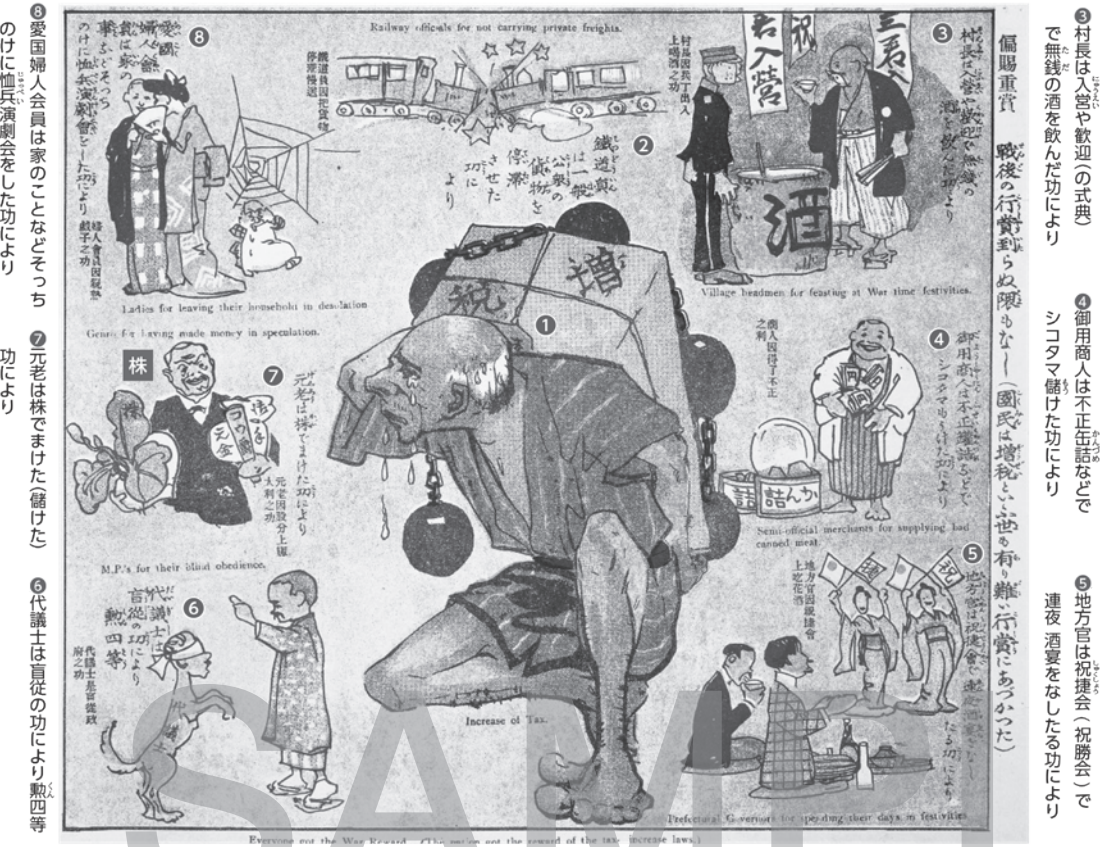
(例) 榜示①～③が静川の流れの対岸に置かれており、静川の水を利用する際に栲田荘側が有利。榜示⑤が、紀ノ川よりかなり志富田荘側に飛び出している。など

このワークシートは、『図説 日本史通覧』の「特集 資料別読み解き演習① 図像資料」 p.341 3 に対応しています。
同ページを参照しながら、次の問いかけに答えてみましょう。

資料1 『東京パック』に描かれた風刺画(1908年)

② 鉄道員は一般公衆の貨物を停滞させた功により

〈さいたま市立漫画会館蔵〉



資料2 当時のできごと

年	事項
1904	2月 日露戦争が始まる
3月	非常特別税法が帝国議会を通過 →戦費調達のため
4月	非常特別税法を公布 ○ 軍用食料の缶詰に石をつめて納入した業者がいるとうわさになる→④
5月	日比谷公園で日露戦争の戦闘の祝勝会が行われる→以後、戦闘の勝利のたびに各地で開催→⑤
1905	1月 非常特別税法改正 →追加増税
9月	ポーツマス条約締結 日露戦争終わる
1906	3月 非常特別税法再改正 →期限を撤廃
1908	2月 酒造税増徴などの増税法案、帝国議会通過

資料1 の右側には、「戦後の行賞到らぬ限もなし」(戦後の恩賞はもれなく皆に与えられた)と書かれている。

Q1 資料1 の風刺画が描かれた1908年は、何という戦争の「戦後」にあたっているだろうか。

資料2 の年表で確認して答えよう。

(① 日露戦争)

Q2 資料1 の②～⑧では、社会の有力者たちがどのような理由で戦後の「恩賞」を与えられたと述べているだろうか。下の表にまとめよう。

番号	人物	「恩賞の理由」	番号	人物	「恩賞の理由」
②	鉄道員	一般公衆の貨物を停滞させた功により	⑥	(④ 代議士)	(⑤ 盲従)の功により(勲四等)
③	(② 村長)	入営や歓迎で無銭の酒を飲んだ功により	⑦	(⑥ 元老)	株で儲けた功により
④	御用商人	不正缶詰などでシコタマ儲けた功により	⑧	爱国婦人会員	家のことなどそっこのけに恤兵演劇会をした功により
⑤	(③ 地方官)	祝捷会で連夜 酒宴をなしたる功により			

Q3 一般の国民はどのような「恩賞」が与えられたとされているか、資料1 ①に注目して答えよう。

(⑦ 増税)

Q4 Q3に関連して、資料2 の年表のなかで租税に関する事柄に下線を引いて確認しよう。また、Q1の戦争のための税を何というか、名称を5文字で書き出してみよう。

(⑧ 非常特別税)

Q5 資料1 の⑥に描かれた子どもの顔は、(⑧)が導入された際の首相の顔をモデルに描かれているといわれている。それは誰か、『図説日本史通覧』p.249から探して答えよう。

(⑨ 桂太郎)

Q6 資料1 の⑥の「盲従の功」とは誰が具体的に何をしたことを考え、この風刺画が何を批判しているかをまとめてみよう。

⑩ 例：⑥では、桂太郎内閣による非常特別税の導入や、戦後の非常特別税の継続など戦中・戦後の増税政策に対して、議会(衆議院)が反対することなくただ受け入れてきたと批判している。全体では、日露戦争以降、一般の国民はただ増税だけを与えられていると批判している。